

## 1. ピリオド

降り続いた雨は上がり 雲間に覗かせた  
青空と太陽が痛いほど眩しい  
君がいなくなつて それから僕もいなくなつた  
二人だけの場所に置き忘れた約束も

「さよなら」のピリオドで 意味を失くしてしまった  
あれもこれも全て捨ててしまえたらいいのに

いつだって君と話したいよ  
笑っていたいよ この声はもう届きはしないけど  
今日だって君を探し彷徨って やっと気づいた  
僕はこんなにもこの世界を知らなかつたってことを

あれからどれくらい 春を一人迎えたら  
今の君と同じ気持ちになれるのかな  
自分の気持ちに嘘つく度 記憶の中の二人は  
あの桜の花みたいに散つていった

いつだって君と繋いでいたいよ  
その右手の温もりはもう忘れてしまったけど  
どこだって君と歩いていたいよ  
君が好きだった 桜並木が今年も街を染め上げてくるのを 一人で見ていた

色付く街…

人混みの中に埋もれていた 僕の存在を  
君が照らして生きる意味を与えてくれたから僕は歩けた

いつだって君と話したいよ  
笑っていたいよ この歌はもう届きはしないけど  
今日だって君を想っているよ もう隣にはいないけど  
そろそろ行くよ 君のいない未来( みち ) へ  
これが本当の「さよなら」

## 2. ひなたの芽

大した理由(わけ) もないのに 何故か落ち込んでしまうのは悪い癖で  
最後の一言が余計だったとか  
無理して立ててる臆病アンテナに どうでもいい噂その他もろもろ  
入り過ぎてもうウザついたいな

やること全てが正しいとは 到底思えないけど  
それなりの意思を持って 自分の存在を表したくて戦ってる

ずっと僕らがね 悩んでるほど 明日はきっと悪くはない  
足りない自分を責めるより ありのままの自分を認めてやろう  
強くなることだけが大人じゃない 弱さを知ってこそ誰かを守れるよ  
本当は愛したいんだ 全ての人、物、この世界も  
こんな想いがいつか届いたら良いのにな

どうしたい? 分からないのに何故か 焦ってしまうのは悪い癖で  
「せーのっ!」で飛び出した場所は同じなのに  
嘘みたいに 上手くやれる奴もいる 地道な努力や才能だとか  
時々疑ったりもするんだよ

妬みや僻みで人を蔑んだり 粗探しばっかりする奴は  
努力もしないくせに口ばっかり その時点での人生(みち)の傍観者です

本当は僕らがね 望む日々は山あり谷ありの繰り返し  
何にもない一日が 無駄だったと後悔するのなら  
良いこと悪いことほぼ同じ分 沢山笑って沢山泣きたいよ  
リバーシブルのコインのような 単純な生き方で良い  
少しくらい不器用なくらいが格好良いさ

もしも僕らにね 立ち止まる日が訪れたその時は  
知ったかぶりの慰めより ただ大丈夫と笑っていてほしい

ずっと僕らがね 悩んでるほど 明日はきっと悪くはない  
足りない自分を責めるより ありのままの自分を認めてやろう  
いつか涙は思い出に変わる どれだけの苦しみも忘れられるよ  
お金も運もないけど 謹めない夢さえあれば  
それだけで素晴らしい未来は作られるよ

### 3. 陽だまりの中で

冷めた手のひら 見つめて  
いつも君が 暖かいねって  
握ってくれたこと  
思い出して震えてる

一人じゃ少し広すぎる  
部屋のドアを  
君がそっと開く頃には  
笑ってくれてたかな

もう二度とは見えない背中が  
全ての嘘を受け入れて  
今も僕の中で揺れるから  
ためらう理由も気付かぬフリして

どれだけ君の夢を見たら  
会えるのかな 会いたいよ  
裂ける程の胸の痛みで  
また君を思い知るんだ  
僕く巡る季節が  
僕を一人残したとしても  
さよならはまだ言えないよ  
この温もりが消えるまで

あれからどれくらい  
月日が経ったんだっけ?  
相変わらずな僕は僕で  
戯言にも似た  
甘い希望信じて唄ってるよ

何だか霞んで見える春の景色  
桜並木は確かに華やいでるのに  
それはきっと悪戯な  
優しい君の青い陽だまりの中で

どれだけ君を描いても  
会えない夜を数えても  
焼ける程の熱い涙は  
心の中溢れて止まらないよ

どれだけ君の夢を見たら  
会えるのかな 会いたいよ  
裂ける程の胸の痛みで  
また君を思い知るんだ  
僕く巡る季節が  
僕を一人残したとしても  
さよならはまだ言えないよ  
この温もりが消えるまで